

銭章翊：『対支宣伝実施参考』と『北支』から検証する中国華北地方に
対する日本宣伝戦略
(1939.6-1940.5)

要旨

本研究は主に日本が 1939 年から 1940 年までの間に華北地区で使用した 2 種類の宣伝材料、『対支宣伝実施参考』と『北支』月刊（12 期）を分析することによって、華北占領と統治の過程で日本が実施した宣伝（プロパガンダ）戦略を探究した。日本が華北への占領統治を強固にするために、軍事上だけでなく、文化、経済、社会などの面での宣伝を積極的に展開していることを確認した。

本研究では『対支宣伝実施参考』文献の分析を通じて、日本が当時想定していた各種宣伝方式（口頭、文字、芸術、特殊活動）を詳しく説明した。そのなかで宣伝の効果を上げるため、対象とする大衆や時代の変化に応じて、宣伝手法を柔軟に調整する戦略が立てられていたことも明らかとなった。

『北支』の研究では、このシリーズが華北地域に対する日本側の多角的な描写を示す資料であることが分かった。主に北支地区の快適な日常生活を展示することを通じて、経済建設（例えば鉄道、資源開発）、社会秩序（例えば治安の改善、女性警察の導入、学校の運営、孤児院の運営）、文化尊重（戯曲、祝日、歴史遺跡の紹介）などの内容を伝え、北支地区が日本の統制の下で安定、繁栄、調和に向かう印象を作り出した。

最後に両文献の比較研究を通じて、『対支宣伝実施参考』に記載された宣伝手法と方式は『北支』シリーズに多くの応用が行われていることを発見した。華北占領期における日本の宣伝戦略は、理論的指導から具体的な実施まで精密に設計されており、経済、文化、社会の多方面で良いイメージを構築し、占領統治の正当性を確保する試みが判明した。